

特集1:

## 中期経営計画・創造と挑戦1000 2年次社長インタビュー

特集2:

マイクロピエゾテクノロジーが  
広げる世界



セイコーエプソン株式会社

2007年3月期  
2006年4月1日~2007年3月31日

# 株主通信

## ごあいさつ



株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のことと拝察申し上げます。また、平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

中期経営計画・創造と挑戦1000の1年次である当期は、収益性の改善を目指し、事業・商品ポートフォリオの明確化と強化、徹底したコストダウン、電子デバイス事業の構造改革などに取り組みました。

インクジェットプリンタ事業における収益性重視の販売戦略、コストダウンの推進、製造と販売が一丸となり実施した無駄の徹底排除による固定費削減の成果に加え、他の事業においても固定費削減が進んだことにより、目標を上回る経常利益を達成することができました。

しかし、中・小型液晶ディスプレイ事業では、価格下落が進むなかでコストダウンの成果はあったものの、顧客の要望に対する技術対応と提案力が不十分であったために販売数量を確保できず、大幅に収益が悪化しました。そこで、同事業の再建を目指し、抜本的な構造改革に着手しました。

当期の最終損益につきましては、中・小型液晶ディスプレイ事業を中心に事業構造再編費用を計上したため、誠に遺憾ながら2期連続の純損失となりました。株主の皆様にはご迷惑とご心配をおかけし、深くお詫び申し上げます。

2008年3月期は中期経営計画の達成に向けて非常に重要な年になります。中・小型液晶ディスプレイ事業の早期再建とともに、各事業において収益性の改善・強化を図るべく全社一丸となって取り組んでまいりますので、引き続きご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2007年5月

代表取締役社長

花岡 清二

### 経営理念

お客様を大切に、地球を友に、  
個性を尊重し、総合力を発揮して  
世界の人々に信頼され、社会とともに発展する  
開かれた会社でありたい。  
そして社員が自信を持ち、  
常に創造し挑戦していることを誇りとしたい。

(エプソンは経営理念を世界の14の言語に翻訳し、グループ全体で共有しています。)

目次   ごあいさつ	01
連結財務ハイライト	02
事業の種類別セグメントの概況	03
<b>特集1:</b> 中期経営計画・創造と挑戦1000 2年次社長インタビュー	05
<b>特集2:</b> マイクロピエゾテクノロジーが拓げる世界	09
環境活動	12
グローバル事業展開	13
会社情報／株式情報	14

本文中、セイコーエプソングループにつきましては「エプソン」、セイコーエプソン株式会社につきましては「当社」と記載しています。

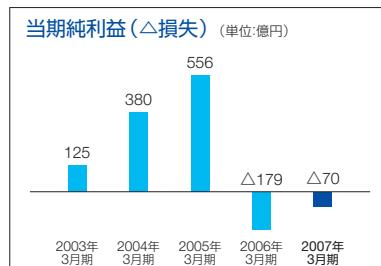
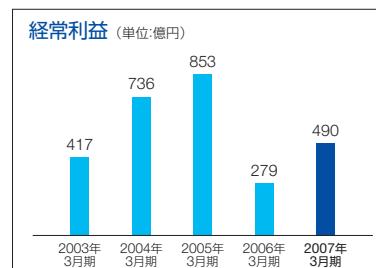
# 連結財務ハイライト

(単位: 億円)

	2003年3月期 (2002年4月1日から 2003年3月31日まで)	2004年3月期 (2003年4月1日から 2004年3月31日まで)	2005年3月期 (2004年4月1日から 2005年3月31日まで)	2006年3月期 (2005年4月1日から 2006年3月31日まで)	2007年3月期 (2006年4月1日から 2007年3月31日まで)
売上高	13,224	14,132	14,797	15,495	<b>14,160</b>
営業利益	493	774	909	257	<b>503</b>
経常利益	417	736	853	279	<b>490</b>
当期純利益(△損失)	125	380	556	△179	<b>△70</b>
総資産	11,976	12,070	12,982	13,257	<b>12,850</b>
純資産	2,813	4,143	4,728	4,745	<b>4,943</b>
1株当たりデータ(単位:円):					
当期純利益(△損失)	81.08	204.70	283.60	△91.24	<b>△36.13</b>
潜在株式調整後当期純利益	-	204.53	-	-	<b>-</b>
純資産	1,851.13	2,110.20	2,408.13	2,416.54	<b>2,395.14</b>

(注) 1. 金額につきましては、記載単位未満を切り捨てています(1株当たりデータを除く)。

2. 会計基準の変更にもとまない、従来の株主資本を純資産としています。なお、2006年3月期までの純資産および1株当たり純資産は、それぞれ従来の算定方法による株主資本および1株当たり株主資本を表示しています。



# 事業の種類別セグメントの概況

2007年3月期の業績の詳細については、同封の「第65回定時株主総会招集ご通知」内、事業報告をご確認ください。

売上高構成比 (2007年3月期)\*

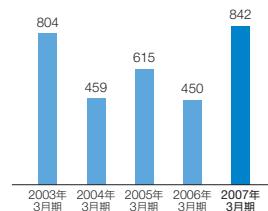
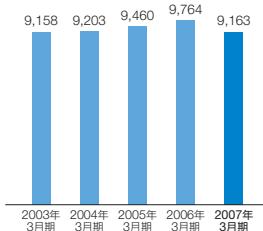
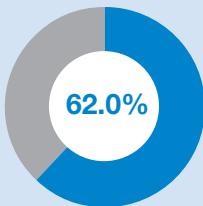
売上高 (単位: 億円) 営業利益 (△損失) (単位: 億円)

## 情報関連機器



フォト複合機  
マルチフォトカラリオ  
[PM-A920]

DVDプレーヤー、スピーカー  
一体型ホームプロジェクター  
ドリーミオ [EMP-TWD3]

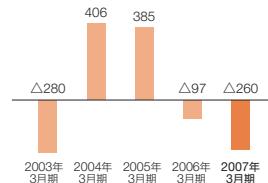
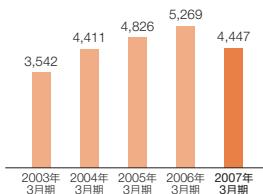
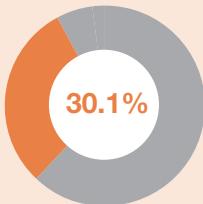


## 電子デバイス



7.1インチ直視型フルHD  
低温ポリシリコン  
TFT液晶ディスプレイ

超小型SMDタイプ音叉型  
水晶振動子 [FC-12M]



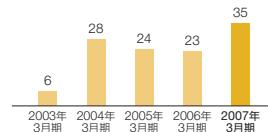
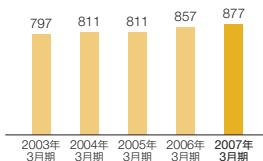
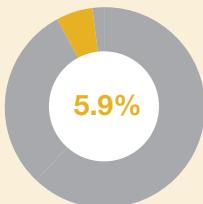
## 精密機器



グランドセイコー  
スプリングドライブ自動  
巻きモデル [SBGA015]



産業用ロボットコントローラ  
[RC170]



## その他



エプソンイノベーションセンター



\* 売上高構成比は、「消去又は全社」を除いて算出。

## 事業内容

- プリンタ事業 (インクジェットプリンタ、レーザープリンタ、ドットマトリクスプリンタ、大判インクジェットプリンタおよびそれらの消耗品、カラーイメージスキャナ、ミニプリンタ、POSシステム関連製品など)
- 映像機器事業 (液晶プロジェクター、大型液晶プロジェクションTV、液晶モニター、ラベルライタなど)
- その他 (PCなど)

- ディスプレイ事業 (中・小型液晶ディスプレイ、液晶プロジェクター用高温ポリシリコンTFT液晶パネルなど)
- 半導体事業 (CMOS LSIなど)
- 水晶デバイス事業 (水晶振動子、水晶発振器、オプトデバイスなど)

- ウォッチ事業 (ウォッチ、ウォッチムーブメントなど)
- 光学事業 (プラスチック眼鏡レンズなど)
- FA機器事業 (水平多関節型ロボット、ICハンドラ、工業用インクジェット装置など)

- 胎内育成事業
- グループ内サービス業 など

## 2007年3月期の主な新商品、開発状況

- プリンタ事業では、「Epson Color」\*をさらに進化させ、新世代画像処理エンジンなどの新テクノロジーを搭載して「キレイに速く」を実現したインクジェットプリンタを発売。
- 映像機器事業では、市場でご好評をいただいたDVDプレーヤー、スピーカー一体型ホームプロジェクターに、PC接続端子 (コンポネント対応) を追加したモデルを発売。

\*Epson Color : 逆光や色かぶりなどの人物撮影を、背景とのバランスも重視して、自然で好ましい色に自動補正してプリントする画像処理技術、長期保存性能に優れたインク技術、美しい仕上がりの写真用紙の組み合わせで実現される写真プリントのこと。

- ディスプレイ事業では、超広視野角技術「Photo Fine Vistarich」 (フォトファイン・ビスタリッチ) を搭載した高精細液晶ディスプレイを開発。
- 水晶デバイス事業では、携帯機器のさらなる小型化に貢献する、超小型SMDタイプ\*の音叉型水晶振動子「FC-12M」を、次世代主力商品のひとつとして商品化。

\*SMDタイプ: 回路基板の表面に実装するタイプのパッケージの総称。なお、SMDはSurface Mounted Deviceの略。

- 光学事業では、松下電工株式会社と共同でプラスチック眼鏡レンズ用の高耐久、高強度湿式反射防止膜を開発。
- FA機器事業では、大幅な小型化と新機能の搭載を実現した産業用ロボットコントローラの受注を開始。また、第8世代の大型液晶基板に対応したカラーフィルタ用インクジェット装置を開発し、大型液晶テレビ用カラーフィルタ製造工程において量産稼働を開始。

- 胎内育成事業では、新規事業化を目指したさまざまな事業の育成および研究開発を実施。なお、2006年4月より、次世代情報関連機器の研究開発拠点である「エプソンイノベーションセンター」が本格的に業務を開始。
- グループ内サービス事業では、エプソン向けに各種サービス事業を子会社で展開。

### 2008年3月期は、将来の売上高と利益の成長へ向けた基礎固めをしていきます。



代表取締役社長  
花岡 清二

#### Q1. まず、中期経営計画の1年次である当期の業績について教えてください。

エプソンでは、前期の業績悪化を踏まえ、2006年3月に中期経営計画を策定しました。現在、中期経営計画で掲げた5つの中期グループ経営方針に基づき、目標である2009年3月期の経常利益1,000億円以上の達成に向け、業績の回復と再成長のための各施策を強力に推進しています。当期は、中・小型液晶ディスプレイ事業に課題が残る結果となったものの、インクジェットプリンタ事業の収益性改善などにより、中期経営計画で定めた経常利益目標(当期目標: 400億円)を上回ることができました。

インクジェットプリンタ事業においては、本体の収益性を重視したマーケティング戦略により、地域ごとにきめ細かく商品構成の見直しをおこない、採算性の低いモデルを中心に出荷数量を絞り込む施策を展開しました。これに加え、コストダウンや事業体質強化の取り組みによる成果などがありました。

中・小型液晶ディスプレイ事業においては、想定に対して、携帯電話向けの販売数量が大きく下回り、携帯電話以外のアプリケーション領域の拡大も進みませんでした。これにより同事業では、業績が大きく悪化しました。この原因を検証し、あらゆる選択肢を多方面から検討した結果、2007年3月に発表したように、構造改革に

着手しました。また同時に、減損処理を実施し、将来の事業戦略の展開に対応した財務体質への転換を図ることとしました。これにより、誠に遺憾ながら2期連続で純損失を計上することとなり、株主の皆様には多大なご迷惑とご心配をおかけいたしました。今後も、収益性改善に向けた施策に引き続きスピード感を持って取り組み、各事業の収益基盤の改善・強化を図ってまいります。

## Q2. 中・小型液晶ディスプレイ事業の業績不振の原因は何であると 考えていますか？また、それを今後 どのように改善していくのでしょうか。

中期経営計画の策定時、中・小型液晶ディスプレイ市場では、価格低下が続くものの、携帯電話とマルチメディア携帯機器向けを中心に拡大すると想定していました。この前提に基づき当期は、今後の成長に向けた基礎固めを

おこなう年として、コストダウンの徹底による事業体質強化と、安定供給・高品質による顧客の信頼維持・向上に取り組みました。コストダウンについては、グローバル調達を進めることにより着実に成果をあげることができました。

一方で、次の2つの原因により、業績不振に陥ることとなりました。まず1点目は、現在の主要なアプリケーションである携帯電話向けなどの商品において、仕様などに関するお客様からのご要望が多様化するなか、4つのテクノロジー（カラーSTN、MD-TFD、アモルファスシリコンTFT、低温ポリシリコンTFT）の保有によってリソースが分散する結果となり、ご要望に十分に答えることができなかったことにあります。2点目は、新規領域の開拓において、強みである技術に基づく市場動向を先取りした提案力が十分ではなく、想定した成果を得られなかったことにあります。

### 中期経営計画・創造と挑戦1000



### 中期グループ経営方針

- 1 事業・商品ポートフォリオの明確化と強化
- 2 デバイス事業構造改革の推進
- 3 コスト効率の徹底強化
- 4 ガバナンス体系の変革
- 5 企業風土改革と全員による推進

## 各テクノロジーの方向性

### カラーSTN

#### オペレーションを海外へ完全移管

- 携帯電話向けは、数量に対応した事業規模を維持。他のアプリケーションの開拓にも注力
- オペレーションを海外へ完全に移管し、効率的な運営を進める

### MD-TFD

#### 2008年3月期中に終結

- 事業終結に向けた取り組みを進める

### アモルファスシリコンTFT

#### リソースを集中し顧客ニーズに応える

- 既存の領域は、今まで以上に顧客ニーズに着実に対応。新規領域については、差別化技術により対応
- 商品企画段階からの部品共通化を徹底。調達コストダウンを強化して収益改善に取り組む

### 低温ポリシリコンTFT

- 低パワー・薄型・高画質・高精細技術により、新規領域を取り込む

このような状況を真摯に受け止め、テクノロジーごとに今後の方向性の見直しをおこない、オペレーション改革に取り組むこととしました。

各テクノロジーの今後の方向性については、カラーSTNのオペレーションを海外へ完全に移管し、MD-TFDの事業を終結することにより、アモルファスシリコンTFTと低温ポリシリコンTFTにリソースを集中することとしました。また、オペレーション改革については、(1) 開発・設計力およびものづくり力などの強化、(2) 生産体制の見直し、(3) グループ内の成長分野への人員の配置転換、(4) プラットフォーム化および部品の共通化、に取り組むこととしました。

これにより、課題となっているお客様のご要望への対応を強化するとともに、新規領域の開拓においても、エプソンの強みである「低パワー・薄型・高画質」にさらに磨きをかけたうえで、特長のある差別化技術によって商品力の強化を図り、収益の改善を進めてまいります。

## オペレーション改革

### 1. 開発・設計力およびものづくり力などの強化

開発・設計力、マーケティング力とともに、ものづくり力も強化

### 2. 生産体制の見直し

事業規模に応じた最適な生産拠点とラインの整理・統合を実施

### 3. グループ内の成長分野への人員の配置転換

MD-TFDの事業終結により、配置転換を進める

### 4. プラットフォーム化および部品の共通化

コストダウンを一層強化するため、部品のプラットフォーム化、共通化を徹底

### Q3. 中期経営計画の2年次である、 2008年3月期の経営戦略について 教えてください。

2008年3月期は、将来の売上高と利益の成長を目指した施策に取り組みます。

インクジェットプリンタ事業においては、1年次に成果のあった収益性改善のための施策だけでなく、中期的な成長を見据えて、プリンタ本体、インクカートリッジの双方で販売拡大を進めます。また、エプソンの中核技術であるマイクロピエゾテクノロジーの強みを活かして、ビジネス領域や産業領域における取り組みを強化し、将来の収益の柱としていきます。

中・小型液晶ディスプレイ事業においては、まずは先ほどご説明したオペレーション改革に取り組み、構造改革を確実かつ迅速に進めます。また、現在の主要なアプリケーションである、携帯電話向けの販売数量の安定的な確保と、成長性が高く、技術力を活かすことのできるハイエンドのスマートフォン、PDA、マルチメディア携帯機器などの新規領域の開拓を進めます。

以上の施策に加え、安定的なオペレーションにより利益貢献をしている次の3事業において、継続して高い収益を確保することで、グループ全体の収益基盤の下支えをしていきます。

まず、ビジネスシステム事業(ドットマトリクスプリンタ、POSシステム関連製品など)においては、収益性の高い既存分野に加え、クーポンプリンタなど成長性の高い新規分野への確実な取り組みをおこないます。

液晶プロジェクター事業においては、成長市場であるビジネス・教育分野向けとともに、ホーム向けにも、競争力のある商品を投入することで、市場成長率以上の販売数量の増加を目指します。

水晶デバイス事業においては、携帯電話、PC、デジタルカメラ向けなど既存の分野に加え、デジタル家電市場の成長を確実に取り込みます。

以上の施策により、2008年3月期は増益を確保し、将来の売上高と利益の成長へ向けた基礎固めをしていきます。

### Q4. 最後に、株主の皆様への メッセージをお願いします。

エプソンは、株主の皆様をはじめとしたすべてのステークホルダーに信頼される経営を目指しています。皆様のご信頼をいただくためにも、将来の売上高と利益の成長に向けて、全員がエプソンの原点である「創造と挑戦」の精神に立ち戻り、一丸となって取り組んでまいります。今後とも皆様のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 特集2:マイクロピエゾテクノロジーが拓げる世界

エプソンでは現在、主力の一般家庭向けインクジェットプリンタに加えて、ビジネス領域や産業領域における取り組みを強化しています。その中核となる技術が、エプソン独自のインク吐出方式「マイクロピエゾテクノロジー」です。今回は、従来の事業領域の枠を超えて活躍の場を拓けるマイクロピエゾテクノロジーについてご紹介します。

### 【マイクロピエゾテクノロジーとは？】

インクジェットプリンタは、極小サイズのインク滴を、紙などの印刷媒体に飛ばして印刷をしています。インク滴を飛ばす方法は、大きく2つに分類できます。ピエゾという圧電素子を伸縮し、その物理的な圧力でインクを吐出する「ピエゾ方式」と、ヒーターを加熱してインクを沸騰させ、発生した気泡の力でインクを吐出する「サーマル方式」です。エプソンでは、ピエゾ方式を採用しています。

エプソンのインクジェットプリンタが他社と決定的に異なる点は、ピエゾ方式の良さを最大限に活かした独自のインク吐出方式「マイクロピエゾテクノロジー」を用いた、インクジェットプリンタヘッド(以下「マイクロピエゾヘッド」という)を使っていることです。

マイクロピエゾヘッドには、次のような特長があります。

#### インク滴を自在にコントロール

吐出するインク滴のサイズと着弾位置を精密に制御できるため、サーマル方式などよりも少ないノズル数で高画質と高速印字を両立することが可能。

#### 多種多様なインクに対応

インクに圧力を加えて吐出するため、インクを加熱するサーマル方式などと比べて、インク組成に対する大きな制約がなく、耐水性、耐候性に優れた水性顔料インクはもちろん、多種多様な液滴の吐出が可能。

#### 高耐久性

加熱をしないため、インクジェットプリンタヘッドの耐久性が高い。

### マイクロピエゾテクノロジーの特長

#### ピエゾ方式

圧力でインクを吐出



#### サーマル方式

気泡の力でインクを吐出



\*イメージイラストです。

### マイクロピエゾテクノロジー

ピエゾ方式の良さを最大限に活かした独自のインク吐出方式。この技術を用いたマイクロピエゾヘッドは…

インク滴を自在にコントロール

多種多様なインクに対応

高耐久性



コンシューマ(一般家庭向け)から産業用途まで幅広く展開可能

これらの特長により、マイクロピエゾテクノロジーの応用領域は、家庭での写真プリントにとどまらず、芸術・文化領域やビジネス領域、産業領域に広がっています。

## ビジネス領域での拡がり— 技術的な強みを活かしてビジネス領域を強化・拡大

マイクロピエゾテクノロジーは、高画質とスピードの両立はもちろんのこと、インク選択の自由度の高さ、インクジェットプリンタヘッドの耐久性の高さといった特長が評価され、写真/ミニラボ、サイングラフィック\*1、デジタル印刷機分野をはじめ、さまざまな企業に採用されています。

将来的には、技術提供のみならず、パートナー企業\*2の新たなビジネスアイデアやビジネスモデルの創出を目指します。

- \*1 屋内や屋外における標識、表示、ディスプレイ、看板など
- \*2 マイクロピエゾテクノロジーの基幹部品である、インクジェットプリンタヘッドやインクをご提供している企業

### 2007年4月時点のパートナー企業

写真/ミニラボ分野	ノーリツ銅機株式会社
サイングラフィック分野	株式会社ミマキエンジニアリング 武藤工業株式会社 ローランド ディー.ジー.株式会社
デジタル印刷機分野	大日本スクリーン製造株式会社
捺染印刷機	Robustelli社

### マイクロピエゾテクノロジーが広げる世界

マイクロピエゾテクノロジーの応用領域は、家庭での写真プリントにとどまらず、芸術・文化領域やビジネス領域、産業領域に広がっています。



また、エプソンブランドの商品についても、マイクロピエゾテクノロジーの特長を活かして、業務用途向けインクジェットプリンタや業務用写真プリントミニラボ機などといった、お客様の業務に密接に結びついた商品を開発していきます。

## ビジネス領域における エプソンブランドでの商品化の一例

### クリスタリオ イージーラボ

インクジェット方式による業務用写真プリントミニラボ機。オプション機器の追加により、ハガキ印刷やポスター出力など、さまざまなプリントに対応。これからは家庭での写真プリント（おうちプリント）だけでなく、お店プリントも本格的にサポートします。



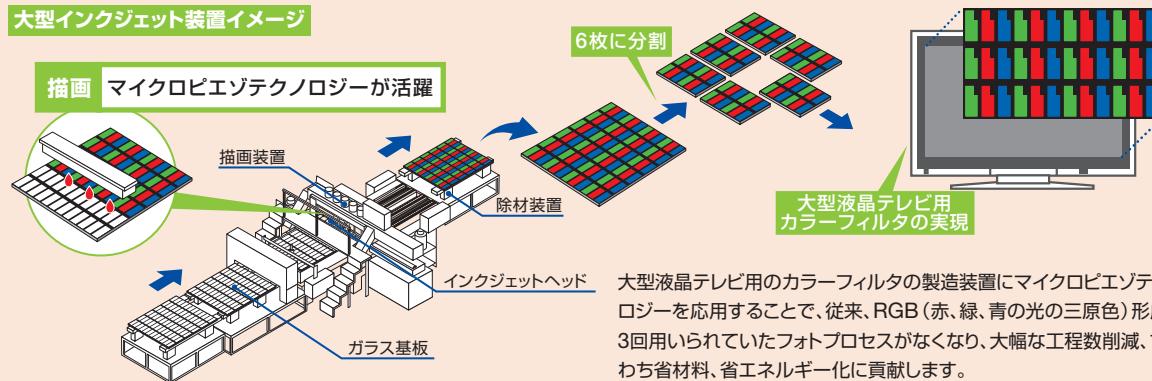
お店プリントの低コスト化、高画質化だけでなく、  
経営の多角化までバックアップ

## 産業領域での拡がり—産業領域での 活用事例と今後の応用領域の拡大

さらにエプソンでは、従来の概念にとられない応用領域の拡大を視野に入れていきます。吐出する液滴の選択肢が広く、高い耐久性を持つマイクロピエゾテクノロジーの強みを活かし、すでに、アパレル製品、大型液晶テレビのカラーフィルタ、回路基盤の製造現場において、製造技術として実用化されています。今後は、環境負荷の低減および生産スピードとコスト競争力の向上を両立させる新しいテクノロジーとして、さまざまな製造プロセスへの技術応用の拡大を目指していきます。

## 大型液晶テレビのカラーフィルタ製造への活用事例

### 大型インクジェット装置イメージ



大型液晶テレビ用のカラーフィルタの製造装置にマイクロピエゾテクノロジーを応用することで、従来、RGB（赤、緑、青の光の三原色）形成に3回用いられていたフォトリソがなくなり、大幅な工程数削減、すなわち省材料、省エネルギー化に貢献します。

## 環境活動

### 環境活動に関する賞を相次いで受賞

エプソンでは、企業活動は地球環境に負荷を与えているという基本認識のもと、世界のどの地域でも同じ基準、目標を掲げて環境活動を推進しています。2007年3月期は、この成果として、環境活動に関する賞を相次いで受賞しました。今回ご紹介する3つの賞は、いずれも環境負荷低減への取り組みが高く評価されたものです。今後も、地球環境との調和を目指し、高い目標の環境保全に積極的に取り組んでいきます。

#### ■「第16回日経地球環境技術賞」を受賞(2006年11月)

日本経済新聞社が主催するこの賞は、地球環境保全への貢献度、研究・技術の独自性、産業界への技術革新の貢献度などを総合的に評価し、毎年最大3件が選考されるものです。今回受賞した「マイクロ液体プロセス」は、電子デバイスの製造において、資源の利用効率向上、廃棄物削減、製造工程短縮を実現する生産革新技術として注目を集めています。



第3回LCA日本フォーラム表彰の受賞トロフィー

#### ■ 第3回LCA日本フォーラム表彰において「会長賞」を受賞(2006年12月)

LCA日本フォーラムが主催するこの賞は、LCA(ライフサイクルアセスメント\*)に関する優れた取り組みを顕彰するものです。受賞テーマは、「LCAに基づく環境製品開発活動」で、LCAの考え方を商品開発、設計段階など広範囲に取り入れていることや、実施結果をエコリーフ環境ラベルとして公開していることなどが評価されました。

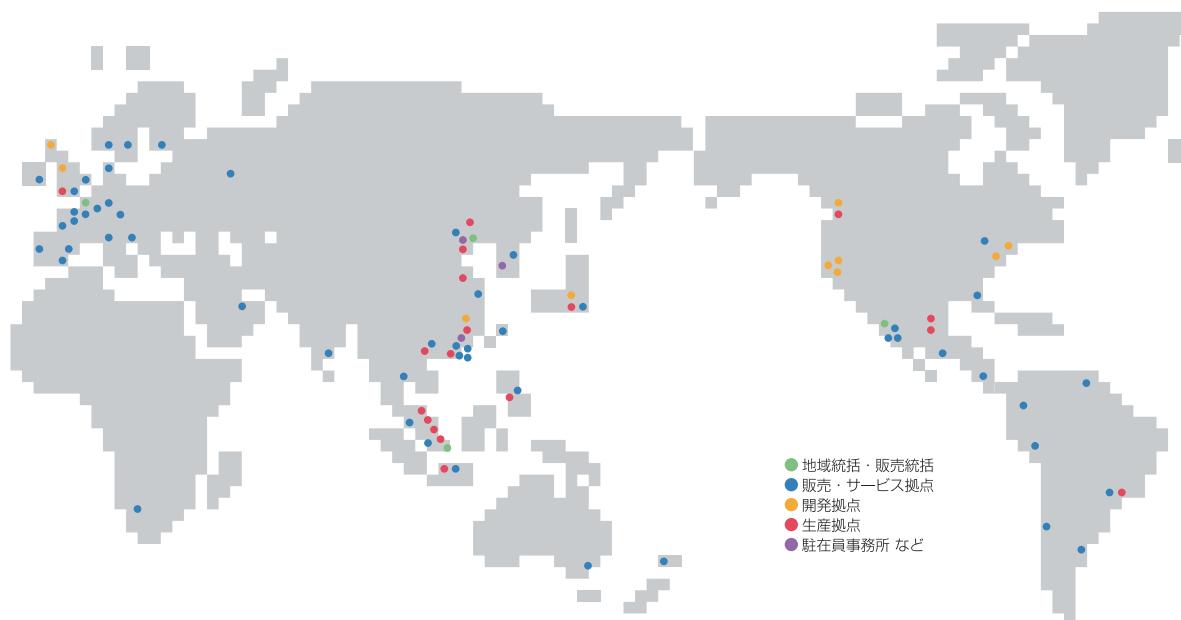
#### ■ 第6回グリーン・サステイナブル ケミストリー賞において「環境大臣賞」を受賞(2007年3月)

グリーン・サステイナブル ケミストリー(以下「GSC」\*2という)ネットワークが主催するGSC賞のうち、環境大臣賞は総合的な環境負荷低減への貢献を顕彰するものです。受賞テーマは「インクジェット法による液晶ディスプレイ用機能薄膜形成技術の実用化」で、これは「第16回日経地球環境技術賞」を受賞した「マイクロ液体プロセス」を実用化したものです。エプソンはこれまで、インクジェットプリンタの開発で培った独自のマイクロピエゾテクノロジーを応用した革新的なものづくりの研究を進めてきました。このインクジェット技術を応用した製造プロセスは、従来方式と比べて、製造エネルギー、材料使用量が1/4に削減できるなど、省エネルギー、省材料を実現しており、環境への負荷を大幅に削減する製造方法として高く評価されました。

\*1 ライフサイクルアセスメント:商品の原料調達から製造、輸送、使用、リサイクル・廃棄までの一生(ライフサイクル)で発生する環境負荷を定量的に把握し、環境への影響を総合的に評価する手法。

\*2 GSC:人と環境の健康・安全を目指し、持続可能な社会の実現に貢献するために、ものづくりにおける化学技術を革新していくことを意味する。

# グローバル事業展開



## ■ 本社および主な事業所

本社	千歳事業所
本店	富士見事業所
広丘事業所	酒田事業所
松本南事業所	日野事業所
島内事業所	塩尻事業所
諏訪南事業所	松島事業所

## ■ 国内関係会社 32社

エプソン販売株式会社
エプソンドIRECT株式会社
東北エプソン株式会社
エプソンイメージングデバイス株式会社
エプソントヨコム株式会社
オリエント時計株式会社
他 26社

## ■ 海外関係会社 84社

<b>統括会社</b>
U.S. Epson, Inc. (地域統括)
Epson Europe B.V. (地域統括)
Epson (China) Co., Ltd. (地域統括)
Epson Singapore Pte. Ltd. (地域販売統括)

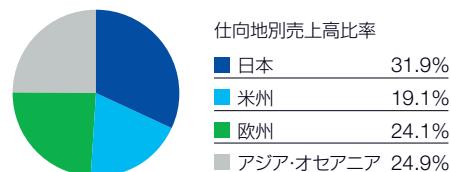
<b>販売拠点</b>
Epson America, Inc.
Epson (U.K.) Ltd.
Epson (Shanghai) Information Equipment Co., Ltd.

<b>生産・開発拠点</b>
Suzhou Epson Co., Ltd.
Epson Precision (Hong Kong) Ltd.
Epson Imaging Devices (H.K.) Ltd.
P.T. Indonesia Epson Industry

他 73社

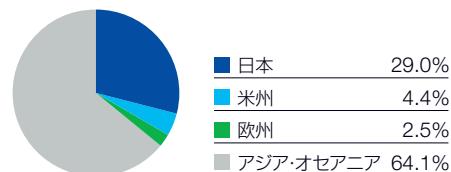
## ■ 連結売上高に占める海外売上高の割合

(2006年4月～2007年3月の12ヵ月通算)



## ■ 所在地別従業員数の割合

(2007年3月31日現在)



(2007年3月31日現在)

## 会社情報

- **本社** 〒392-8502 長野県諏訪市大和三丁目3番5号  
TEL: 0266-52-3131 (代表)
- **本店** 〒163-0811 東京都新宿区西新宿二丁目4番1号  
新宿NSビル  
TEL: 03-3348-8531 (代表)

- **資本金** 532億4千万円
- **創立** 1942年5月18日

- **従業員数** (2007年3月31日現在)
- 連 結: 87,626人
- 単 体: 13,039人

- **グループ会社数** (2007年3月31日現在)
- 117社(当社を含む)
- 国 内: 33社
- 海 外: 84社

- **役員一覧** (2007年3月31日現在)

<取締役ならびに監査役>		<業務執行役員>	
取締役会長 (代表取締役)	草間 三郎	業務執行役員常務	真道 昌良
取締役副会長	服部 靖夫		矢島 虎雄
取締役社長 (代表取締役)	花岡 清二		加々美 健雄
取締役副社長 (代表取締役)	丹羽 憲夫	業務執行役員	Ramon Ollé
専務取締役	両角 正幸		John Lang
常務取締役	大月 康正		平野 精一
	赤羽 正雄		内田 健治
	久保田 健二		濱 典幸
	小松 宏		有賀 修二
取締役	碓井 稔		上柳 雅誉
常勤監査役	大前 昌義		牛島 升
	木代 俊彦		丸山 三明
監査役	山本 恵朗		小口 徹
	秋山 富一		伊藤 一紀
	石川 達紘		宮澤 要
			森 昭雄
			酒井 明彦
			小池 清文

## 株式情報

- **株式の状況** (2007年3月31日現在)
- 会社が発行する株式の総数 607,458,368株
- 発行済株式の総数 196,364,592株
- 株主の総数 38,160人

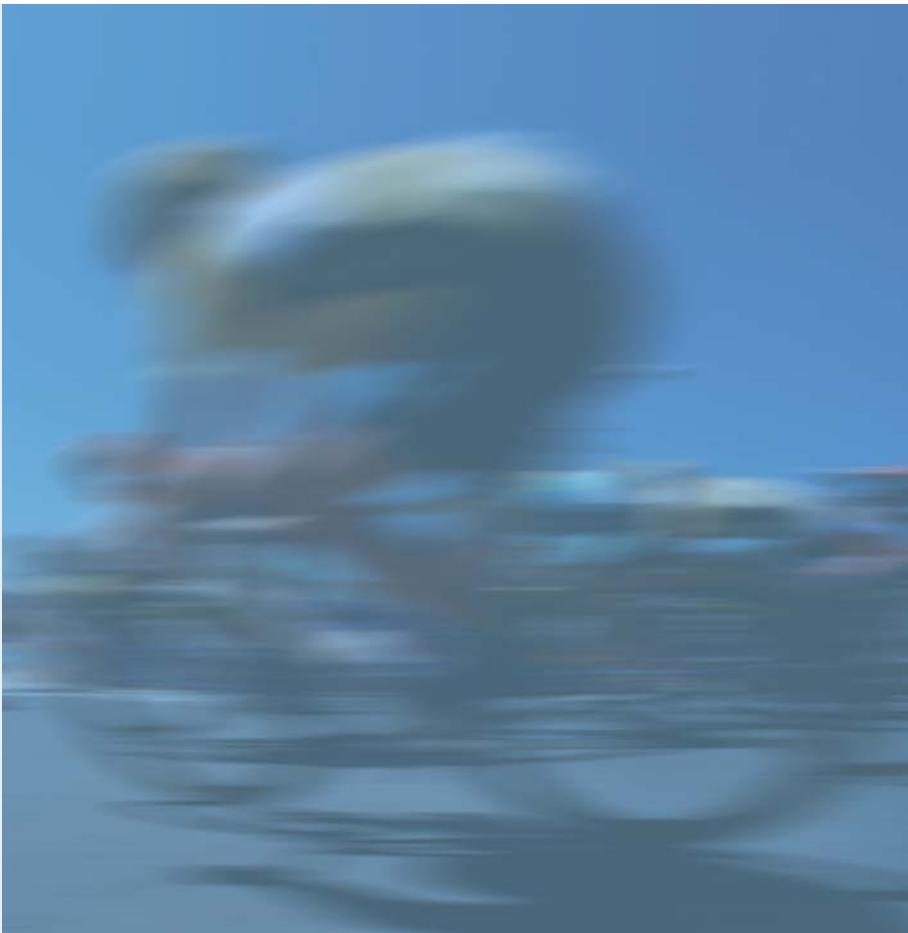
- **大株主の状況** (2007年3月31日現在)

株主名	所有株式数 (千株)	所有比率 (%)
青山企業株式会社	20,318	10.34
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	14,613	7.44
三光起業株式会社	14,288	7.27
服部 靖夫	7,145	3.63
服部 禮次郎	7,060	3.59
第一生命保険相互会社	6,240	3.17
セイコー株式会社	6,145	3.12

(注) 1. 所有株式数は千株未満を切り捨てています。  
2. 所有比率は小数点以下第3位を切り捨てています。

- **株主メモ** (2007年3月31日現在)

決算期	3月31日
定時株主総会	6月中
期末配当金支払株主確定日	3月31日
中間配当金支払株主確定日	9月30日
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部 0120-288-324 (フリーダイヤル) <a href="http://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/">http://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/</a>
同取次所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店
公告掲載方法	電子公告によりおこなう。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載しておこなう。
	公告掲載アドレス <a href="http://www.aspir.co.jp/koukoku/6724/6724.html">http://www.aspir.co.jp/koukoku/6724/6724.html</a>



## セイコーエプソン株式会社

〒392-8502 長野県諏訪市大和3-3-5  
Tel: 0266-52-3131 (代表)

<http://www.epson.jp>



**R100**

この株主通信は再生紙および大豆油インキを使用しています。